

気仙圏域県立病院運営協議会議事録

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木）15：00～17：05

場所：岩手県立大船渡病院 3 階大会議室

1 開会（太田事務局次長）

只今より、平成 29 年度気仙地域県立病院運営協議会を開催いたします。議事に入るまでの間、お手元の次第に従いまして、進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに、お手元に配布してあります資料の確認をさせていただきます。会議次第と資料につきましては、事前に送付させていただいておりますが、本日、テーブルの上に各病院からの現況報告のパワーポイントの資料 4 部配布させていただいております。配付漏れなどがございましたら、お申し出くださるようお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

2 委員紹介（大浦事務局次長）

本日ご出席いただきました委員の皆様を、お手元の座席表に従いましてご紹介いたします。議長席に向かいまして右から順にご紹介いたします。

① 大船渡市長 戸田 公明 様。

② 陸前高田市長 戸羽 太 様。

本日は副市長の岡本様に代理で出席いただいております。

③ 住田町長 神田 謙一 様。

④ 沿岸広域振興局副局長 桐野 敬 様。

⑤ 大船渡保健所長 平賀 瑞雄 様。

⑥ 大船渡市社会福祉協議会総務課主任 石橋 厚子様。

⑦ 大船渡市農業協同組合指定通所介護事業所 立根施設長 金野 寿江 様。

⑧ 陸前高田市地域女性団体協議会 副会長 齋藤 百合子 様。

⑨ 陸前高田市コミュニティー推進協議会連合会長 村上 誠治 様。

続きまして、議長席に向かいまして左側の委員の皆様を順にご紹介いたします。

⑩ 岩手県議会議員 田村 誠 様。

⑪ 岩手県議会議員 佐々木 茂光 様。

⑫ 気仙歯科医師会長 横沢 茂樹 様。

⑬ 気仙薬剤師会長 大坂 敏夫 様。

⑭ 住田町国民健康保険運営協議会委員 吉田 次男 様。

⑮ 住田町社会福祉協議会 主任福祉活動専門員 菊池 和子 様。

⑯ 大船渡市地域婦人団体連絡協議会 小松 由美 様。

⑰ 住田町婦人団体連絡協議会長 小野 ちか子 様。

⑱ 大船渡市地区公民館連絡協議会長 佐藤 勝利 様。

⑲ 住田町自治公民館連絡協議会長 高橋 靖 様。

本日は、委員 19 名のご出席です。

3 職員紹介（太田事務局次長）

次に医療局及び病院職員をご紹介いたします。

はじめに、医療局職員をご紹介いたします。

- ① 大槻 医療局長です。
- ② 小原 経営管理課総括課長です。
- ③ 赤坂 医師支援推進室医師支援推進監です。

続きまして、病院職員をご紹介いたします。

- ④ 伊藤 大船渡病院長です。
- ⑤ 田畑 高田病院長です。
- ⑥ 渕向 大船渡病院統括副院長兼住田地域診療センター長です。
- ⑦ 氏家 大船渡病院副院長です。
- ⑧ 中野 大船渡病院副院長です。
- ⑨ 佐々木 大船渡病院事務局長です。
- ⑩ 廣田 大船渡病院総看護師長です。
- ⑪ 一井 高田病院事務局長です。
- ⑫ 熊谷 高田病院総看護師長です。
- ⑬ 宮森 大船渡病院医事経営課長です。
- ⑭ 富手 大船渡病院総務課長です。

そして、私、大船渡病院事務局次長の太田です。よろしくお願いいたします。

（太田事務局次長）

それでは、当協議の会長の戸田様よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

4 会長あいさつ（戸田委員）

皆様、こんにちは。本協議会の会長を務めさせていただいております大船渡市長の戸田でございます。本日は委員の皆様におかれましては大変お忙しいなかご参会いただきまして誠にありがとうございます。

また、本日の会議に岩手県医療局からご臨席いただいております大槻医療局長様におかれましては、常日頃から気仙圏域の病院運営等にご高配賜り厚く御礼申し上げます。

併せまして、伊藤病院長、田畑病院長、渕向住田地域診療センター長はじめ病院スタッフの皆様には気仙地域の医療の中核として日夜ご尽力いただいておりますことに深く敬意を表します。

さて、皆様、ご存知かと思いますが、本年4月から国民健康保険の制度改革が実施されまして市町村と都道府県が共同で保険者機能を担い、県が国民健康保険の財政面を統括することとなります。これは、国民医療費が増加を続ける状況におきまして保険者の規模を拡大することで安定的な国民健康保険の運営を確保することが目的でございます。同時に国では国民の健康寿命の延伸と医療費の抑制に取り組む考えを示しております。そのために住民の健康増進はもとより地域の中核病院とかかりつけ医の連携強化や、医療と介護の切れ目ないサービス提供など、地域包括ケアシステムの構築が求められておりま

す。すでに気仙地域におきましては、「未来かなえネット」が稼働いたしまして医療機関と介護事業所で登録者の情報を共有できるしくみが出来ておりまして、行政といたしましては、「未来かなえネット」の運営補助と登録者の拡大に向けて取り組んで参りますので市民の皆様方にもいっそうのご理解・ご協力をお願いする次第でございます。

本日は、気仙圏域の県立病院の運営等につきまして皆様方からご意見やご提案をいただき協議会ですので、気仙医療の一層の充実のために忌憚のない意見をお聞かせいただきますよう重ねてお願いし申し上げます。

5 岩手県立大船渡病院長あいさつ（伊藤大船渡病院長）

皆さん、お忙しい中、おいでいただきまして本当にありがとうございます。今年は、我々医療機関にとっても大変な年として、惑星直列と言いますか、診療報酬と介護報酬の障害者医療の報酬改定という大きな節目を迎え、さらに医療保険計画が策定され殆ど終わりになっていると思っておりますが、それが発表になるというように世の中が変わる節目の時期に来ていると思うのです。特に、皆さんにとって非常に大切なところは、地域医療構想というずっと上の話かというと違って、皆さんが実際に診療にかかわるときに大切な計画であるということですし、地域の包括ケアシステムを造るという地域の人々におろされた住民参加のシステムを作るという、ここ数年できちんとした形でやっていかなければいけないということになります。その中で県立病院群がどのような形で気仙地域に最適で安全に利用できる体制をつくるかが大切だと思っております。そのようなことも含めて、この後、田畑院長をはじめとして色々なお話があると思っておりますが、皆様方のご意見・ご希望を承りたいと思っておりますので宜しくお願いします。

6 医療局長あいさつ（大槻医療局長）

皆様、お疲れ様でございます。実は、昨日、一昨日、伊藤院長と東京に行っておりましたが、こちらに参りますと東京と大体同じような気温かなと思っております。やはり気仙は暖かいのだなと思っております。3月が近づいてきますと震災から何年という話で、なかなか傷は癒えないのですが、今年に関して言いますと3月から被災していた高田病院がオープンできるという記念すべき年になるのかなと思っております。私は、震災の時に医療局で経営管理課長をしていた関係で非常に感慨深いものがあります。今まで県病の医療関係者も頑張りましたが、住民の皆さんの支えがあってここまで来ることができたと思っております。また、市長さん、伊藤院長からお話もありましたが、保健福祉部でこれからの計画づくりを行い、それを受けて医療局で経営計画を作成します。保健医療計画を踏まえたうえですので丁度1年遅れの経営計画になろうかと思っております。今から作業をしておりますが、その中でキーワードとなるのが「地域包括ケア」の考え方なのだろうと思っております。今までは、県立病院群という言い方をしました。県立病院群の中で病状、回復度合いに合わせてそれぞれ役割を担っていく形でしたが、これに福祉が繋がっていくというのが端的に言えば、地域包括ケアの考え方と思っております。そういった意味では、これから県立病院は今まで以上に市町村の福祉部門、施設の皆さんと連携を深めて行かなければならないと考えておりますし、そのための入退院調整の看護師、メディカルソーシャルワーカーの充実も計画の中で図っていかなければならないと考えています。是非ともそういった中で地域がいい形で病院を退院してから後のケアまで含めてうまくいけばと思っております。また、市長さんから未来かなえネットのお話も出ましたが、コンピューターの世界もなかなか一気にいかないものですから、医療局でもそれ

それぞれの圏域ごとにネットワークづくりをして参りましたが、盛岡等一部を除きだんだん出来て参りましたが、最終的に県下全般で繋がれば、例えば、重篤ながん等の手術を中央病院で行ってその後、大船渡病院、高田病院、そして福祉の施設と繋がりができて行くと思っており、それにも力を入れて行きたいと考えております。

本日は、住民の皆様からの貴重なご意見を来年度の重点にも反映させたいと思っておりますし、経営計画にも反映させたいと考えておりますので是非とも忌憚のないご意見をよろしく申し上げます。

7 議事

(1) 気仙地域県立病院群の運営状況について（事務局説明：佐々木大船渡病院事務局長）

(2) 各病院の現況報告について

- ① 田畑高田病院長説明
- ② 伊藤大船渡病院長説明
- ③ 廣田大船渡病院総看護師長説明
- ④ 熊谷高田病院総看護師長説明

※資料に基づき上記順に説明

(3) 質疑応答

戸田議長

大船渡病院、高田病院の院長、総看護師長、前に事務局長から説明がありましたが、ここから質疑に入ります。予定終了時刻の17時まで残り30分ほどではありますが、有意義な会としたいので委員の皆様から発言をお願いします。

佐々木委員

色々ご説明頂き、ありがとうございます。先ほど、大船渡の看護の仕事相談ということで説明頂きましたが、相談に訪れたが仕事に就かなかった方は、どのようにしているのでしょうか。医療局では掴んでいますか。折角、人材がありながら条件が合わなかったということで現場に入ってくる方が、だんだんと減っている訳ですよ。そういった方々は、また別の医療機関に行って落ち着いているのか、相談に来ている割には定着が少ないということは、どのようなことが原因になっているのでしょうか。

廣田大船渡病院総看護師長

ご質問ありがとうございます。私たちのところでは、仕事相談のところから電話があつて大船渡を受けたい人がいるという情報をいただき何件か受ける人がありました。その中で、経験値が浅い方とか、大分ブランクがあるので急に病院に入るのは心配ですよということ等がありました。最初から働くということではなくて教育もちゃんとしながらやりますからと伝えていきます。具体的な数は看護協会でないとは分からないのですが、貴重な人材ですので、今後もしっかり対応して行きたいと思っております。

吉田委員

私は、住田の人間ですので住田地域診療センターの2階の活用方法について、県として独自に活用方

法を考えているのかをお聞きしたい。住田町では何か取り組みが始まったようですが、病院側として独自に高田病院と大船渡病院でいっしょに気仙地区全般の医療体制ができるような構想を持っているのかお聞きしたい。

大槻医療局長

ご存じのとおり住田地域診療センターについて要望書がございました。ベットがあってその一つ一つの病室が小部屋に分かれている。医療局は医療関係の仕事しかできないものですから、最近になって地域包括ケアと言われ方をしていますが、地域診療センターが病床休止をしたその段階から、前町長の多田さんのときに何度もお邪魔して活用について相談をさせていただきました。小部屋に分かれていることもあって、施設基準さえ合えばいわゆる福祉系の施設として活用出来るのではないかと、1階に医師もいることから良い施設になるのではと活用を考えてきたのですが、なかなか実現されておりません。他の地域では、同じような地域診療センターは、北から九戸、沼宮内、大迫、花泉とありますが、その中で福祉施設として活用されているのは九戸、大迫、花泉でございます。話し合いがなくなったわけではございませんので、今日は新しい町長さんもいらっしゃっていますので、私どももご相談に応じたいので逆にアイデアを出していただければと思います。

吉田委員

例えば、アイデアを出した場合、県としては支援していただけるのでしょうか。

大槻医療局長

医療局では、できることとすれば、不動産使用料関係について努力したいと考えております。

神田委員

医療関係者の日頃のご苦勞に対し感謝申し上げます。先日、介護関係の会議でも話をしましたが、社会構造が、右肩上がりの人口増と経済成長であった時代から、右肩下がりの時代に入り、人口に関して言えば日本全体が50年先まで人が減り少子高齢化という構造に変わっていますが、右肩上がりの方が当たり前という感覚をどう修正して行くか、町民の皆様にも理解してもらわなければならないと考えています。そういう中で医療の在り方について、命が一番大切と考えておりますが、認識を変えていかなくてはならないと思っております。サービスしてもらうのが当たり前のような感覚ですが、先ほど伊藤院長のお話にもありましたように共生と言いますか、お互い支え合う、共存し合う、どう補い合うかという部分の認識のあり方、情報の発信のあり方等々を含めた中で地域医療を作って行かなければならないと思います。医療局長がおっしゃったとおり行政といえどもある意味で企業経営という観点も含めて、町民の皆様にも言い難い部分も出てくる訳ですが、これまで政治家が余りにも目先の利益へ先導してきたこと等を反省し、自らの観点も含めて世の中に作って行かなければならないと考えております。ご理解いただくためには、今日、お示ししていただいたこと等を含めて、行政サイドとして町民の皆さんに対し、現在どのような状況なのか、どうあるべきか、将来像を示しながら理解してもらったうえで、気仙の医療体制について、それぞれの組織がしっかり機能できるように図って行く中で、患者といえどもいっしょに参加してもらい、住民総参加という考え方に持って行かなければならないと考えています。

伊藤大船渡病院長

住田地域診療センターは、大船渡病院の附属機関ですので何もしないということではなく、住田町でも協議されているとは思いますが、例えば、看護付き多機能施設等を委託事業として行うなどで、我々ではなく他の法人が行うものではありませんが、我々も決して協力は惜しみません。利用についてシャットアウトするものではありません。もう一つは、当院の職員には、様々な特技を持った医師や看護師がおりますので、そういう職員を上手く使っていただくと良いと思います。例えば、住田町で言いますと糖尿病が非常に多い、そして腎機能が悪くなるというようなパターンがある程度分かっていますから、ただ単に椅子座ってやる形ではなく、もっと分かりやすいような講演会、リハを呼んでいただくとか、栄養士を呼んでいただくとかオープンにやっております。実は、その窓口がクローバー（通称）なんです。そうやって住民の人達をボトムアップしていった方が、医療費を使わなくて済むと私は考えておりますので、そういうことには十分協力して行きたいと思っています。

大槻医療局長

先ほど、九戸、大迫、花泉とお話しさせていただきましたが、これは永続的な施設としてですが、それ以外に、例えば、紫波は丁度いいリハビリ室がありまして、それを短期で活用し、町の健康講座をやって行こうという考えもあります。長く使うというだけでなくスポットで使うということもできると思いますので、ご相談いただければと思います。

横澤委員

私は、住田地域診療センターの前で長年、開業しております。医療機関が開業医がいなくなって唯一の医療機関ですので期待が大きいものがあると思います。話題がそれるかもしれませんが、今年は、いつになく大雪で、ずっと毎年、私を含めて有志の者で住田診療センター前に県道で 100m くらいの直線を患者さんのためと思い除雪しています。患者さんが安心して歩けるよう、是非、除雪車を回してもらいたいと思いますので検討をお願いします。

大槻医療局長

機械を購入する等、私どもで出来ることを考えたいと思います。また、本日は（沿岸広域振興局）桐野副局長もいらしておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

桐野委員

私もどのような体制で臨んでやっているか分からないので、どのような方法があるか相談したいと思います。

大坂委員

薬剤師会の大坂と申します。先ほど伊藤先生からドクターのモチベーションを上げるのに感謝が一番良いと言う話がありました。地域住民が出来る医師確保対策として思い切り上手に褒めてあげるといい

んでしょうが、気仙の人は、恥ずかしがり屋が一杯なので出来かねる状態ではあるかと思えます。医療制度と医療政策を理解するということと、感謝を伝えるということと、医師家族との交流と言うことで、私が物凄く大事なことだと最近特に感じていることですが、家族があっちにいるからあっちに行くと言うドクターが一杯いるので、こちらに家族を止めておけばドクターも残るのかなと感じるが、何か工夫等していることはありますか。それとも病院としては、なかなか難しいと思えますので、行政とか地域コミュニティーの人達に要望したいことは具体的に何かありますでしょうか。

伊藤大船渡病院長

ありがとうございます。褒めると言うのは、挨拶程度の感謝でよいので、例えば、買い物した時でもお金を払って「ありがとうございます。」と言うじゃありませんか。そんな程度でよいのです。ドクターというのは、どちらかと言うと褒められたことがないのです。今まで、けっこう先輩達から、「お前、それじゃダメだ。」と言われてたりしています。それから怒られるのに弱いのです。大学までは、怒られたことのない人達ですから。感謝されると、ホッとやる気になって人が変わることがあるのです。人間の気持ちというのはポジティブで行った方が良いと思えます。また、私が経験しているところでは、県立病院なので、なかなか地域の人達と交流というわけにいかないのですが、町立病院とか市立病院だと歓迎会を地域でやるのですね。そうすると、地域の方と知り合いになって、「分からないことがあったら私が教えるから」などと言ってきて、繋がりが出てきます。よくあるのは、幼稚園や小学校は、学区があるからだいたい決まっているのですが、どこがいいということが話題になります。後は、奥さんが一番大切で、馬を射るところでは、奥さんを定住させた方がドクターは居るのです。奥さんの言いなりになるドクターが多いですから。地道なところなので、今すぐどうこうしてということではないのですが、我々も地域のドクターとして、気仙のドクターだと思って働いているわけですから、病院が大船渡市にあるから大船渡市だけということではなく、例えば住田町に呼んでもらって色んなところで話をすると人の繋がりが出来てくるので、そういうお付き合いが定住に結び付いて成功している地域も実はあります。岩手県はちょっと少ないのですが、そういう方向でいいと思えます。

大坂委員

市長さんたちに希望することはないですか。

伊藤大船渡病院長

こうして欲しいとは言えないのですが、何かきっかけは必要ですよ。出来るだけ自分も参加させようとは思っています。新人のドクターには、恒例で参加することになっているから行って来いよ。後は、私の経験で言えば、若いときに来てその女性と結婚してそのままいる人もいれば、一度はそこを離れても必ず奥さんの実家の近くには帰って来て仕事をするとか、ドクターは結構、そういうパターンが多いのです。長期的には、いいと思えます。

戸羽委員（代理：岡本副陸前高田市長）

話は変わりますが、地方に行ったときは東京に人を送り込まなければならない人事がありまして、い

っしょに行った奥さんが、東京がいいので残りたいと言って2年の予定が3年やったというようなこともありまして、旦那さんは、仕事がきついのでやりたくないのですが、地域で奥さんも含め残りたいなと思えるようにすることが、人が残ってくれるためには大事なことと思います。

斉藤委員

高田病院にボランティア室が出来ると聞きました。どのようなボランティアをするのかとか、時間的にどうなのかとか、週に何回とか、1カ月に1回、2回でもいいのかどうか詳しくお聞きしたい。

田畑高田病院長

やっと器が出来たところなので、まだ、やり方や具体的に週何時間といったところも決められませんし、出来る範囲でやっていただけるとありがたいです。具体的な業務としては、一つは、患者さんのご案内ですが、病院の職員も勿論やりますが、事務的になってしまうところもありまして、一般の方が優しく誘導していただくとか、また、少しスペースができますので、花壇とか花を植えるといった作業をしていただけるとありがたいです。あるいは、清掃について、苦しい思いをして草むしりをしてほしいということではありませんが、ご協力願える方があるとありがたいです。色々、考えられますが、具体的なものは、これからなので、志のある方に集まっていただいて院内で調整させていただき、有効に動いていただければよいと思っていますところでは。

斉藤委員

突然、行って今日ボランティアさせてくださいでもよいのですか。

一井高田病院事務局長

被災前の病院では、高田病院を守る市民の会の方々が、花壇の整備や院内で様々なことをしていただいた経緯があったようです。ただ、それはボランティアという形ではなかったものですから、今、新しい病院でボランティアという形をつくりたいと思っています。ご相談しながら、形を作って皆様にご案内をしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

田畑高田病院長

具体的には、登録制にして登録した方に集まっていただいて検討することになると思います。

斉藤委員

年齢は関係ないのでしょうか。

田畑高田病院長

体が動けて志があれば年齢問わずということになると思いますので、よろしくお願いします。

田村委員

今、大船渡病院では大規模改修が行われていますが、院長さんが地域との連携を非常に大事にされる方として、地域の懇談会なり地域に行き研修会をやっていただくなど様々な活動をしている成果だろ

うと思うのですが、いつまでということは言いませんが、私のところに苦情という形で多い時期がありました。やはり地域の連携が大事だと痛切に感じるところでございます。そのためには、医師数や看護師数といった充足率が大切なことなのだと思うのですが、大船渡病院、高田病院、住田地域診療センターの医師や看護師の充足率は、上がってきているのでしょうか。また、臨床研修医が、今度県内で90人くらい定着しそうだという新聞報道でありましたが、医師や看護師の確保の取り組みをお聞かせ願いたい。

大槻医療局長

医師の数の話をすれば、昔に比べて間違いなく減っています。どこの病院もそうなのです。ただ、新しいお医者さんを作るのは、それなりに時間がかかるものですから、何とか先生方は歯を食いしばって、あるいは、県立病院のネットワークの中で診療応援としてやっています。それから、看護も分野が非常に細分化されてきたものですから、看護も大変になってきていて、数としては随分と増やしているのですが、十年前から看護、事務、医療技術と医師以外で500人くらい増えています。それでも足りないという話になっていますし、一方で若い人達も減ってきていますので、募集をしても定員に満たないという状況がここ数年起こっています。色々な業界で今、人が足りないという話になっており、私達だけではないのかもしれませんが、何とか確保のための対策をとっております。医師については、奨学金制度があって、今は、地域枠という制度も出来ております。今年、初期研修医がどれだけ県に定着するかというマッチング数が、先ほど90人とお話しされていましたが、これは過去最大です。多少、効果が出ているのかなと思っています。最新の数を申しますと留年の方が出ているので、83人まで減っております。それでも過去最大であることは違いなく、お医者さんの数を増やす方向で進んでおります。後は、岩手県では、何とか医師が定着していただくために、新たな取組を始めています。今、初期研修から後期研修が終わって専門医というものを取ろうとする傾向がありまして、専門医が大学でなければ取れないとなりますと大学へ一旦、戻らなければならなくなります。県立病院のネットワークの中で在籍しながら、専門医を取れるプログラムを組めば、若いときからずっといていただいて義務履行年限を県立病院で過ごしていただくことが出来ますので、勉強のために県立病院に残って良かったと思われるようなプログラムを作ろうと努力しています。

伊藤大船渡病院長

充足率というのは、なかなか難しいのですけれども、後どれくらい医師が欲しいかであれば、後20人です。60人体制でやるのが、当院はいいのかなと考えていますが無理なのです。後は、マッチング数が現在83人とのことですが、これから国家試験の発表があります。それに合格するかどうかで、また、減るといったことがありますので、なかなか計画通りに行かないところがあります。それでも、少しずつ我々も頑張っていますから、安心できる体制にしたいと思っています。

田村委員

先生方も患者さんを診るために自分の身を削りながらやっているお医者さんもかなり多いと聞いております。一日も早く十分対応できるような体制、あるいは診療科によってはまだ不足しているところもあるようですので、その辺も含めてやっていただければと思います。院長先生が、地域に溶け込んで行く、あるいは、地域の皆さんとの連携を大事にするということが、これからの一層大切になると思

ます。今日は、医師の奥さんを大事にすると定住するというような話もありましたが、非常によい話を聞くことができました。ありがとうございました。

戸田議長

今日の協議の場は、約 30 分間という短い時間ではありましたが、皆様から素晴らしいご意見をいただいて協議が出来ました。様々なご意見が出されましたが、どうか、今後の病院運営に活かしていただき、また、地域医療に貢献していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもって議事の一切を終了。

9 閉会